

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第2回高松市創造都市推進懇談会（U40／2期）
開催日時	平成27年2月23日(月) 18時30分～20時40分
開催場所	高松市役所32会議室
議 題	(1) 「前回の振り返り」と「今後の進め方」について (2) 「食育・学校給食」について (3) 「都市の顔づくり～情報の編集・発信～」
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	甘利委員、岡田委員、鎌田委員、坂口委員、高島委員、田中委員、谷委員、中筋委員、西成委員、英委員、人見委員、広野委員、松岡委員、真鍋邦委員、真鍋康委員、森委員、若宮委員、山家委員、
出席職員	佐々木、平田、佐野、溝渕、 末澤、高田、田村、永木、中西、木村、石川、林田、今井、山田、金坂、杉野、藤目
傍聴者	0人      (定員 5人)
担当課および連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411

### 審議経過及び審議結果

1 開会  
市役所U40紹介

2 議題  
(1) 「前回の振り返り」と「今後の進め方」について

会長

今後の進め方について説明（資料2）  
前回の会との大きな違いは、市役所のU-40が混ざること。  
民と官の在り方を考える場に。民と官との関わりの中での、やりづらさ等実感の声をこの場で意見交換したい。

委員

ホットトピックスを議論するなら1週間前には議題をもらいたい。委員が事前に意見をもって会に臨むようにすればよいと思う。ここが学びの場であってはだめだ。行政が求めているのは何らかの尖った意見なはず。

職員

【協働について】

協働が一番効果を発揮するのが災害の時である。災害の時に、屋内の家財を外に出す作業で、行政は個人の財産を外に出す権限がないので外に出すことはできないが、街の人やボランティアが出したものを行政がまとめて回収することはできる。

持っている力を最大限に発揮できて、仕組みの隙間に落ち込んでいる課題をみつけたときに協働がうまく力を発揮する。事前に行政の課題を示すことで、議論も深められるし、各委員の得意な分野が発揮できるのではないかと思う。

## 審議経過及び審議結果

委員

事前準備として、テーマに合致する課の職員に現状や課題などの情報をもらえると助かる。

委員

今後のテーマの決め方は？

会長

各論を基本にやっていきたい。

事務局

市役所U40の自己紹介で書いてある議論したいことも含めていきたい。回数が限られているので、同じテーマを2回扱えるかはわからない。

委員

回数的にも1回あたりの時間も限られるので、足りない場合は分科会を作るのがいいと思う。

委員

分科会ってしなくても興味がある事案があれば、単独で動いてもいいと思う。

委員

テーマごとに行政の権限や、NPO等の協働の構造が異なっているはず。それぞれのテーマごとに、関係性を理解した上で、具体的に話を進められたらよい。

委員

多くの人が集まっても、その場だけの議論ではもったいないと思う。U40でできたコミュニティを生かしたい。次の懇談会を待って議論するのではなく、自主的に集まって議論しやすい環境があればいいと思う。

会長

1期目の反省を活かし、行政側は、U40で出した意見を課に持ち帰って、検討した結果を、保留なども含めてリアクションしてほしい。

また「都市の顔づくり」として情報の編集発信について、毎回（後半30分くらいで）議論したい。単発のイベントではなく、創造都市として一体感のある見せ方をしたい。これは、英さん・坂口さん・中筋さんを中心に進めていきたい。

委員

編集すること・広告すること・プロモーションすることは全部似て非なるものなので、分けて話ができれば。

極端に言うと、盆栽を持って誰かが月に行けば宣伝としてはいいかもしれないけれど、そういうことを求めてはいないはず。

委員

行政は場所を提供することがやりやすいと思う。そこに集まって、イベント等をし、常に情報発信ができるというスペースがあればいいと思う。

職員

次回のテーマについて、毎回最後に振り返りの時間を入れて、決めたい（テ

マ担当就任)。

委員

市側でこれだけはやってほしいというテーマがあれば教えてほしい。

職員

商店街の活性化、空き店舗、空き家の有効活用の方法、リノベーションについて考えたい。

職員

議論したいテーマにあがっている「港から街へ人の流れを作るには」と「高松駅周辺の賑わいづくり」をつなげたらいいと思う。導線についての話をして、冬のメディアアートにもつなげられるのでは。

会長

メンバーは均等に振り分けたい。商店街活性化なら、森さん・ポンさん・松岡さん・高田さん

委員

テーマに取り上げる順番が急ぐものは？例えばジャパンエキスポは関係ない？

職員

ジャパンエキスポとは、7月上旬にフランスで行われている日本のサブカルイベントのこと。観光交流課が担当していて、県は出展せず、高松市として出展する。

観光交流課の観点からいくと、ジャパンエキスポも含め、高松をどうブランディングしていくか絞れていない。市として発信の軸を決めかねている。

職員

これで高松のブランド決定というのではなく、回遊させる仕組みを考える中で高松のブランドを考えるというのはいかがでしょうか。

回遊性というのは、観光客が高松をどう回ってもらうかという考え（観光からの観点）なので、ここでの議論を生活者の立場とするのか観光客の立場とするのかはどうか？

職員

2010年の芸術祭のデータでは、宿泊者数の半数以上が高松市に泊まっているのに、芸術祭からの美術館の常設展・特別展観覧者数は、高松に泊まった人の1%にも満たない。港から島へは行くけど、街へは来ない。

リニューアルオープンやメディアアート祭などイベントを目標にして数を上げていきたいと思う（観光の視点）

委員

瀬戸大橋ができる前が1番高松は面白かった。その当時の地図を見ると、駅とお城・商店街が今よりちょっと近い。昔は海から人や物のエネルギーがやってきていたのに、瀬戸大橋ができサンポートができ、気づいたらそれがなくなった感じ。

職員

都市計画が進む中で、人の流れが寸断されている状況があるので、あそこに何があるよという目印が必要だと思う。

委員

各論でいくのか、ブランディングでいくのか分かっている

委員

情報発信について議論するなら、ある種のブランディングに基づいて編集していくしかないので、ブランディングの話とつながっていくと思う。

委員

ブランド化するって難しい。極端に言えば、高松の空気を詰め込んだ缶詰を作ってもブランド化になる。チューリップといえばオランダ。レゲエといえばジャマイカ。でも、盆栽といえば、高松とはならない。何か1本に絞らないと毎回ぼやんとしちゃう。

U40が力を注ぐことで、上昇するカテゴリが何かを選び出す作業は必要だと思う。

委員

都市計画でいうと image ability (イメージのしやすさ)。イメージのしやすさをいくつかの方法でやっていくことで、都市のブランドにつなげる。ゆるキャラでのブランディングは良い戦略ではない気がする。

高松に10年ぶりに来たとき、うどんを食べようと瀬戸内海を見ようと思ったのに、高松駅を降りたときどちらも見当たらなかった。わかりやすいイメージをインフラの部分につなげるのが大切。なぜサンポートにラーメン横丁なのかとか。

会長

熊本のブランディングの講義を参考資料として配る。

委員

高松と言えばコレ！と世界中の人が思い浮かぶようなキーワードを3つくらい絞ってそれをどう発信するか考えたらいいと思う。

委員

勇気を出して余計なものを削っていくことが大切。幕の内的になっちゃうとつまらないものになってしまう。選択と集中。

会長

次回の宿題として、「高松といえばコレ！」というものを3つ考えて、次回の受付時に書いてもらう。

## 議題2 「食育・学校給食」について

(職員から、資料3の説明)

学校給食は9年間で終わってその後ずっと関わらない人もいる。

食べることから人づくりに発展していくと考えている。学校給食は児童だけだが、町の人たちにもつなげていきたい。

委員

学校給食と食育について、体験から給食につなげるのはいいと思うが、なぜ市場から買うのか？自分で収穫したものを自分で食べるリアリティーは大切だと思う

う。給食を通して、親も巻き込んだ食育が必要だと思う。

委員

同一献立はルールか？

職員

ルールである。なぜ統一でないとダメなのかということがクリアできれば（仕組みが変えれば）、個性ある献立ができると思うので今後できてきたらいいと思う。

委員

食育と学校給食は同じようなもので違うと思う。規則も校区によって違うと思う。ここで議論するのは、高松の魅力で議論してフィードバックできたらと思う。

### 【グループワーク】

#### 【Aグループ】

##### 親子給食食堂

- ・大人が給食を食べる場、親と子どもが同じものを食べることで家庭の会話も増える

##### 給食場の開放

- ・調理場を開放し、観光するなど、地域の人たちと一緒に何かする。

##### 駅弁

##### こども農園

- ・全小学校がそれぞれ毎週1時間お世話をし、給食で使う。
- ・参観で親に食べてもらう。地域の人に販売する。

#### 【Bグループ】

##### 食事の場の開放

- ・地域の人（農家さん・地域の高齢者）と食べる給食
- ・異文化理解の場に
- ・オープン給食（サラリーマンが自分の子どもや地域の子どもの子どもが食べているものを知る）

##### 給食場の開放

- ・校区の運動会限定で炊き出しをする（地域の飲食店の人など中心に。）

##### 年に何回か、学校オリジナルメニューを取り入れる

- ・校区内生産者から買い付け。
- ・自分の家で採れた野菜が給食に→誇りに！
- ・地域の飲食店と共同でメニューをつくる（お店でも食べられる）

##### 校内放送のコンテンツ交換

- ・ほかの学校に自分たちのまちの良いところをアピールできる機会

##### my 漆器

- ・漆器の扱い方を知る
- ・盛り付け方も変わるかも？
- ・漆器のリペアも含め、産業として漆を塗る人の仕事をつくる

##### 収穫から給食の場で調理されて、食べるまでの流れを知る体験学習

#### 【Cグループ】

##### 記憶に残る給食＝楽しいもの

- ・ポン菓子で全小学校を回る。

(子どもたちは味を記憶するのではなく、体験を覚えている)

- ・ E A T B E A T を全校で実施
- ・ 校長先生と食べたり、違った学年と一緒に給食など環境を変える。

#### 9年間の給食の特徴を生かす

- ・ 食べ物(梅干や味噌等)の熟成を楽しむ。(例: 年生は1年目の梅干し、中学3年生は9年目の梅干し)

#### 晩ごはんに給食がでるまち+学童との連携

- ・ 夜ごはんに親子で給食を食べる
- ・ 独居高齢者に給食を提供する。(独居高齢者の把握にもつながる)
- ・ 16時頃にコミセンに集まってもらって学童をし、18時から給食がでる。
- ・ 子どもの数は減るので、減った分を補うよう高齢者に給食を提供すれば、給食を作る人たちの雇用の維持も可能。

#### 給食メニューについて

- ・ 完全和食にしてしまう。
- ・ 地域のお店のご飯を出す。(お店でも同じメニューが食べられる)

#### その他

- ・ 担当教諭の興味によって、できる体験が変わってくる
- ・ 大きな窯を使う調理は誇れる技術のひとつでもある。→防災時に活かす

### 【Dグループ】

#### 風景ごはん

- ・ 産地の風景を見ながら給食を食べる。(徳島大学の先生が試みている)

#### 男木島の島給食

- ・ 現在、男木島の小学校は毎日朝日町から運んでいる。統一給食の今後を考えるに当たり、男木島のような小さな学校で、「新たな給食」を試みてはどうか。

#### こどもの自発性もてる仕組み

- ・ どうやって楽しく食事をするか、演出の仕方を考えるなど子どもたちが自分で考えるべき。楽しくないと子ども記憶には残らない。

#### 器(漆器)をしっかりと使う

- ・ どんぶりのワークショップ(MYどんぶりで食べる)
- ・ 漆器が使えれば高松の伝統的ものづくりを知ることにもできるし、生徒が自分で洗えば食育にもなる。問題は費用の問題である。

#### 地産地消と食育は切り離して考えるべき

- ・ 昔からそれぞれの産地のものが流通して成り立っている。郷土料理や産地を知るのは大事だけど、遠くのものなぜ流通しているのか考えることも大事。効果的な教え方が必要だ。

#### 地域との関わり方

- ・ 給食場で地域の人たちと一緒に作る。
- ・ 老人+こどもの組み合わせはいいと思う。一緒に食べるだけで食育になる。
- ・ 子どもたちが老人ホームに給食を作りに行く。
- ・ 高齢者と一緒にごはんを食べる

#### 親の食育

- ・ 親が危機感を持たないといい食事は作れないと思う。18歳までに骨密度をあげるためには、それまでにいい食事を与えるために、親の教育が必要だと思う。

- ・ 学校給食は努力義務。給食はやらなくても良いが、給食をやるのであれば、さまざまな基準がある。主食と牛乳は県で統一されている。新潟県三条市では米飯給食で牛乳を廃止し、その代わりに小魚や量を増やして工夫してい

る。

- ・学校給食は儲からないが、生産者がどう考えているか知る場もない。子どもたちに、野菜のことを伝えたいけど、生産できる量が少ないから給食の流通に乗せられず、関わるのが難しいという声がある。

会長

変えようと思えば、規制、コスト、時間の戦いだと思う。

事務局

次回の案内。